

安倍さんがわかりやすくお答えします！平和安全法制のなぜ？ナニ？ドウシテ？

第一回 「なぜ必要なの？ なぜ急ぐの？」

27年7月6日（月）21:00～

（大沼みずほ参議院議員）：こんばんは。参議院議員の大沼みずほです。本日は安倍総裁をお招きしております。みなさん、この暑い夏、ちょうど今、平和安全法制について国会では熱い議論が行われています。でも私も地元に戻ると「平和安全法制って一体何なの？」と色んな方に質問されます。そこで今日は内閣総理大臣でもある安倍晋三総裁にじっくりとお話を伺いたいと思います。

今日から5回に分けて、この平和安全法制について、みなさんと共に考えていきたいと思っております。安倍総裁、どうぞよろしくお願ひします。

（安倍晋三総裁）：どうぞよろしくお願ひします。

（大沼）：私も地元を回っていると、特に女性の方から、平和安全法制というけれども、戦争法案というようなことを言う人もいるし、何だかちょっと怖いなおっしゃる方も非常に多いんですが、本当にそうなんですか。

（安倍総裁）：今言われたようにですね、戦争法案とか怖いんじゃないかというイメージが、残念ながら、だいぶ広がってしまったと思います。思い出していただきたいのですが、まだ大沼さんにとっては相当若い時代だと思ひますが、PKO法案を審議した時も、自衛隊を海外に出すと、これはもう海外派兵じゃないか、戦争の時代に戻るんじゃないかと、こんなことを言われました。そして、法律が成立をした時も、日本がずっと戦後守ってきた基本的な姿勢を変えるものだ、立法府の自殺だ、とまで断じた新聞の社説もありました。憲法違反だという批判も随分あったんですね。

先般、日・メコン首脳会議でカンボジアのフン・セン首相と会ったんですが、フン・セン首相が「あの時日本が決断をしてPKOを出してくれた。PKOに自衛隊が参加してくれたおかげで、その後のカンボジアの平和と安定と発展があった。カンボジアは今や南スーダンでPKO活動をする方にまわることが出来た。そして、カンボジアが今行なっている医療支援においては、日本の自衛隊員であれば24時間いつでも最優先で診察したい。そう思っている人が沢山いますよ」というお話をしてくれました。

当時フン・センさんは日本の新聞から「なぜPKOを受け入れるんだ」という批判すら受けたと語っていました。そして、今度もしこの平和安全法制が成立して、PKOにおける自衛隊の活動がより積極的になり、より貢献できるとなれば、スーダンにおいてカンボジアの部隊と自衛隊の部隊が共にスーダンの平和と安定のためにもっと力を合わすことができますね、というお話もいただきました。

このように色々な見方があるんですが、今度の法制もですね、まずは日本人の命や幸せな暮らしを守るための法制です。同時に今日本人は世界中で仕事をしていたり、あるいは旅行をしていますから、やっぱり世界が平和で安定している必要があると思います。そういう仕事のために自衛隊のみなさんも世界の国々と共に汗を流していく。決して戦争をするのではなくて、むしろ戦争や紛争を抑止したり、あるいは平和な状態を保つために、この法制を進めていきたいと思っています。

(大沼)：私もイラク、ヨルダンの難民キャンプに行った時に、日本人の女性でユニセフで働いている方や、青年海外協力隊で頑張っている方に会いました。こうした方に何かがあった時に今の法律では PKO 部隊にいらっしゃる自衛官の方が助けられない。世界中で働いている日本人の命を守っていくことはやはり必要なのではないかと思います。一方で、戦争に繋がるんじゃないかという不安の声もあります。70 年間、日本は平和国家として歩んできた訳ですが、それが違う方向に行ってしまうんじゃないかという声もありますが。

(安倍総裁)：戦争法案だとか、安倍さん戦争をしたいんですかということをする人がいるんですね。野党もそういう決めつけをよくします。70 年前、私たち日本人は一つの誓いをしました。二度と戦争の惨禍は繰り返してはならない。この誓いのもと、日本はひたすら平和国家として歩んできましたし、これからは更に地域や世界の平和のために貢献しなければいけないと思っています。

戦争をしたいなんて誰も思っていないですよ。前の選挙で戦争をしたいと思って自民党に票を入れた人は、一人もいないと思います。我々はまさに有権者に日本の政治を託されました。託されたということは、まさにこの平和な日本を守る。日本をより繁栄させていく。みなさんが、日本人が安心して生活できる日本を作っていく。あるいはみなさんが安心して世界で活躍できる、そういう世界を作っていくために、日本は貢献をしたいと考えています。

(大沼)：そうですね。実は私も地元で、戦争をしたくない人と戦争をしたくない人が、戦争をするのかしないのかと、おかしい議論をしていると地元で言われます。我々は戦争を食い止めるために、むしろこの法案を出すんだということを、積極的にアピールしていかないとなと思いました。

一方で、日本を取り巻く環境というのは、北朝鮮からテポドンも飛んできてニュースになりましたけれども、確実に脅威が広がっていることも国民は分かっていると思います。あの国ではトップの交代があり、今はまだ不安定で、幹部の処刑などもあって、何か暴発するんじゃないかとか、やはりその脅威の認識というのは、共有していかなければいけないと思うんですが。

(安倍総裁)：そうですね、例えば北朝鮮ですが、かつて北朝鮮は拉致作戦を行って、13歳の少女を含む多くの日本人を拉致しました。工作船でやってきて、闇夜に紛れて上陸をしたという作業員もいました。しかしですね、当時、拉致が行われた70年代、まさか北朝鮮がそんなことをするとはみんな思わなかったんですね。国ぐるみで人を拉致する、そんなことをして何の利益があるんだと、みんな思っていました。私たちが拉致問題があると主張をしていた時でも、何を言っているんだと言う人もいました。北朝鮮とはうまくやらなければいけない。確かに北朝鮮と我々も何とかこの拉致問題を解決するために交渉をしています。でも実際に拉致作戦をやっていたのは事実です。

同時に北朝鮮は数百発の弾道ミサイルを持っていて、その内、ノドンミサイルというのはまさに日本を標的にしていて、それに載せる核兵器の開発も進んでいます。そこで、このミサイル攻撃から日本人の命を守るためにミサイル防衛システムを日本は導入しているんです。海上から発射してミサイルを打ち落とす、あるいは陸上から発射して打ち落とすんですが、この飛んできたミサイルは、例えば1000キロの距離は10分間で到達してしまう。その間に打ち落とさなければいけません。そのためには、アメリカの協力が必要なんです。アメリカの衛星がミサイルを発射したということを知り、軌道計算なんかもします。そういう協力をしながら、これを打ち落とす。日本のイージス艦も配備をされますが、米国もたくさんイージス艦を持っていて日本と協力していく。まさに日米で一緒に北朝鮮のミサイルから日本を守ります。

でもミサイルを撃ち落としていても、どんどんミサイルが飛んできますから、このミサイルの基地も攻撃をしなければいけません。日本はその能力はありませんから、米国がそれを担っていきます。つまり日本と米国が一緒になって日本人の命を守らなければいけないという、そういう時代を今迎えています。昔は、日本はそういう能力、アメリカの船を守るという能力は実はほとんどなかったんですが、今イージス艦という高い性能の船が、自衛隊にもあります。その日本の自衛艦と米国の同じ能力を持つ船が協力をすることによって、非常に強力になってくるんです。今回の法制は、そういう協力をスムーズに行うための法律でもあります。実際に日本を守るために日本海で警戒をしているアメリカの船が攻撃を受けた時に、この船を守れなければ日本を守る事が出来ない。それを出来るようにするのが今回の法律でありまして、そのように大きく日本を取り巻く環境が変わっている。

昔はですね、随分昔の話にはなりますが、米ソの冷戦時代には、米国とソビエト連邦が大体二つに分かれていましたから、この二つの大きな国が話をすれば解決をするという時代がありました。その中で日本もアメリカの下にいれば安全や平和を享受する事が出来たんですが、今はより複雑になっていて、例えば、中東で起きていることはもちろんアメリカもなかなかコントロール出来ない。そして、もちろんロシアもコントロール出来ませんし、中国もコントロール出来ないという状況があります。そんな中で、世界みんなが協力をしなければそれぞれの国は守れないし、世界で活躍しているそれぞれの国の人を守るためには、世界中がお互いに協力をしなければいけないという時代になった。そういう時代になったからこそ、日本は日米同盟のこの力を、協力の絆を強めていくというこ

とと、世界と共に地域の平和を守るための貢献を日本もしていくことによって、結果として日本人は世界で活躍できるし、日本も守ることができるのではないのかなと思います。

(大沼)：ありがとうございます。日本はやはり災害も多いですし、防災意識というのはすごくあると思いますが、そうした国際環境においても備えをしていく必要があると思います。これまではあまり法整備が進んでいなかったということでしょうか。

(安倍総裁)：決してそんなことは無いんですね。先ほども申し上げましたPKO法案を成立させて、世界における平和と安定のために貢献を始めました。それでもやっぱりいくつか不備がありましたので、それを今度しっかりとなくしていこうというものなんです。あるいはまた、周辺事態安全確保法、これは朝鮮半島とかアジア等々で何か日本の安全を脅かすような出来事があった時には日本は後方支援をしましょうというものです。

また、テロ特措法というのがありましたね。あれはアフガン戦争が始まった後、テロを根絶していくために日本は給油活動を行った。こういうその時々求められることはやってきているんです。そういう中で先ほども申し上げましたように、だんだん厳しさが増して来る、そして日本も色々な経験をして能力を上げてきた。そういう状況の中で、例えば、日本に近づいてくる国籍不明機がいるんですが、そういう国籍不明の戦闘機や爆撃機が日本の領空に入ってこないように、自衛隊は緊急発進をして領空に入っちゃダメですよということを伝えるんですね。この緊急発進については、この10年間で約7倍に増えているんです。つまり、それくらい日本をめぐる環境は厳しさを増しています。

でもこれは日本だけで日本を守り抜くのは大変です。ですから日米同盟の力、あるいは国際社会と連携をして、もちろん一番大切な前提は外交努力をしていくという事です。お互いに武力による威嚇、そういうことは行ってはダメですねと、もし紛争があったら平和的に解決しましょうということは当然言っていくし、外交努力もする。私も今まで54カ国、世界を回りました。そういう努力をすると同時に、やっぱり今やっている法律の整備というのは、いざという時のためのものなんです。でも明日必要かということとは分かりません。でも明日必要でないということにするために、ちゃんと備えはしておきましょうと。いざという時のための法律ではありますけれども、作っておけば、これは私は安心ではないか、それはいわば抑止力になるんだろうと思います。

(大沼)：備えあれば憂いなしということですね。ソマリア沖では年間200件を超えていた海賊による襲撃事案もあったわけですが、これは上半期でゼロになったと。

(安倍総裁)：そうです。この備えあれば憂いなしというのは、まさに一般のご家庭でも戸締りをしっかりとしていれば泥棒や強盗が入らない。また、その地域・町内会でお互いに協力しあっていると、隣のお宅にもし泥棒が入ったらすぐに警察に連絡をする。そういう助け合いがちゃんと出来ている町内は犯罪というのは実際少ないんですね。そういう所に

は泥棒が入ったら捕まってしまうから、そういう所には入りませんよ。これがいわば抑止力なんですね。戸締りもしなくて開け放って寝ていたら、そういう家には、これは簡単だと、捕まらないし簡単な仕事だなどと思って泥棒や強盗が入ってくる。そういう戸締りをちゃんとしていく、しかもお互いに協力をし合っていこうということであれば、そういう地域には恐らく悪い人は入っていかない。

そこでかつてはソマリア沖で海賊が横行していて、日本の船もずいぶん襲撃されました。一年間に一番多い時で 237 隻の襲撃事件があった。かつては日本の船だけは自衛隊が守る事が出来たのですが、しかし日本の船だけではなくて、船籍が違う船で日本にやってくる船もいます。そこで国際社会でお互いに助け合いましょうということになったんです。お互いに助け合って、お互いに協力して世界の船をみんなですりましようということになりました。そこで自衛隊も参加することになって、今度は、自衛隊は世界の船も助けると同時に、アメリカやイギリスやフランス、色んな国々と共にそこを通る船を守るという事になったんです。そして、そのことによって、かつて 200 件を超えていた海賊事件、これが今年は半年でゼロになった。つまりこうやって各国の軍艦がいる、日本の自衛艦もいますから、襲ったら自分たちがやられてしまいますね。これが抑止力。ゼロになったけど、では止めるかと言ったら、この船がいるから、自衛艦がいるから、みんな襲わないわけですから、これからも続けていこうという事になったんだらうと思います。

この海賊対処法を決めた時も、実は遠いソマリア沖ですから、ホルムズよりも少し遠いですから、とって遠いんですね。そんな地球の裏側まで行くんですか、という議論がありました。民主党は反対しました。でも、今日本人の多くはやって良かったなどと思っているのではないのでしょうか。日本船主協会の人たちもぜひ続けて下さいと言っています。あの時も本当に同じような意見があった。これは集団的自衛権の行使ではもちろんありませんし、いわゆる武力の行使とは違いますが、姿としてはだいぶ似ているんですね。国際社会がみんなですりましようという機運が出来てきた。これはもう 10 年前、20 年前とは大きな違いだと思います。そういう時代に合わせて、相手が国であったとしても、国同士が協力し合っていくことによって、その国や地域の人たちの幸せな暮らしが守れるのではないかなと。そのための法律だという事を、これからも分かりやすく説明していきたいと思えます。

(大沼) : どうもありがとうございました。今日から始まりました平和安全法制に関する総理との対談第一回目、いかがだったでしょうか。また、明日は集団的自衛権ってなに？アメリカの言いなりに戦争するの？ということで、牧島かれん議員がインタビュアーとして総理にお話しをうかがいます。本日は安倍総裁、どうもありがとうございました。

(安倍総裁) : ありがとうございました。

了